

農政連だより

みどりの風

Noseiren Dayori Midori no Kaze

3
月号
No.243

五百羅漢（熊本市：写真提供 熊本県）

200年前、熊本の商人「淵田屋儀平」が、金峰山の西側の麓にある雲巖禅寺内で、24年の歳月をかけて、石工3善に様々な表情の羅漢を彫らせ、奉納した石仏群である。この境内にはコミックス「バガボンド」の主人公である宮本武蔵が「五輪の書」を書いたと言われる雲巖洞がある。

主な内容

- ・第23回 JA 熊本県大会 Part2
「県下 JA グループの重点実施事項（概要）」
- ・JA 熊本うき女性部活動報告
- ・ガンバッテいます：米村秋夫さん、吉岡多恵さん
- ・各連合会からのお知らせ

せせらび

「本籍不詳。住所 横浜市中区寿町二丁目四番地
〇〇荘 氏名不詳（自称山下徹）年齢五十から六十
歳、身長百六十五cm、痩せ型、頭髪白髪で長め、遺
留品現金九百円、腕時計。」

死亡場所は発見場所と同じ、死因は肝硬変。
遺体は火葬に付し、遺骨は市久保山墓地に保管し
てあります。お心当たりの方は、当市福祉局保護課
まで申し出てください。」

官報の「行旅死亡人」（こつりよしぼつにん）の
広告が掲載され、親族や知人の引取りを待つ。

一月、NHKスペシャルで放映された「無縁社会
—無縁死3万2千人の衝撃—」の現実に愕然とさせら
れた。全国千七八三自治体を調査した結果、引き取
り手がなく、自治体で火葬・埋葬された無縁死の、
平成二十年度の数である。この中で、警察・自治体
での身元不明者が千名にも及ぶという。

そして、これらの死因は「飢餓死」「凍死」等が
最も多く、死亡して発見されるまで、2〜3ヶ月も
経過し、すでに白骨化しているケースもあるという。
地方から都会に働きに出て、何らかの事情で家族
を失い、失意の中で、一人ひっそりと死んでいった
のであろうか。

そして、これらを専門に清掃する業者が、「特殊
清掃業者」である。そのホームページに次のように
記載してある。

「親しい人が亡くなれば、衝撃的な現場を見た後
に、通常では考えられないような状況を掃除します。
我々は、そういった状況の中にある、お客様の悲し
みを少しでも和らげることが使命だと感じます。」

十二年連続で3万人を越える自殺者、3万2千人
の無縁死、一体この国はどうなってしまったのだろ
うか。人を人として大切に、当たり前前の社会が、
今こそ望まれている。

第23回JA熊本県大会 開催される —Part2—

前号に引き続き12月4日に開催された「第23回JA熊本県大会」の特集で、今回は「重点実施事項（概要）」の3つの内容について掲載します。

県下JAグループの重点実施事項（概要）

「生産者と消費者を結ぶ地域農業の復権」

1. 信頼と高い評価を誇る熊本県農畜産物ブランド戦略の実践

本県の農業産出額は、平成20年度で3069億円と近年、微増しているものの、過去10年間で700億円もの減少となつていきます。今後は、農業産出額の増大に向けて、JAグループ総力を挙げて、農業生産の維持・拡大のみならず、販売戦略革新を図り、農業所得の増大に取組むことが喫緊の課題です。

▼熊本県農畜産物統一ブランドを具現化した販売戦略の構築

▼消費者と生産者を結ぶ安全・安心ネットワークの構築

▼品目別生産販売戦略の実践

2. 多様な地域農業を支える担い手の育成・支援

地域における「担い手育成支援計画」に位置づけられた担い手像と担い手リストを基に、多様な担い手がそれぞれの立場で安定した農業所得が確保できるよう専門分野に特化し、品目ごとの採算性を考慮した効率的な農業経営を支援します。

▼地域農業担い手の支援

▼新たに参画する農業担い手の育成・確保

▼担い手の経営安定化を図るJA相談・事業機能の強化

▼「熊本県農家経営管理支援体制」の構築

3. 農地の有効活用による生産性向上支援

農地制度の考え方の基本が「所有」から「利用」へ転換されたことを受け、JAが主体となり、その有効利用に向けた取り組みを強力に推進する。

▼JAが主体となった農地の有効活用と担い手への面積集約

▼農地の利用率向上による食料生産増大対策

▼中山間地の農村環境保全と活性化対策

4. 地域農業を総合的にマネージメントする支援体制の確立

「担い手確保」、「農地の利用」、「販売戦略」の基本戦略を進めていくために、地域の農業情勢、JA事業全般、農家の営農形態等を踏まえた上で担い手育成や集落営農、農業法人育成、産地形成など地域農業全体をサポートする体制確立とマネージメントできる人材を育成します。

▼「担い手・農地・新規就農等」総合的なサポート体制の確立

▼地域農業マネージメントができる人材の育成

▼行政と一体となった営農指導力の強化対策

5. 国民合意のもとでの農業政策の実現

新たな「食料・農業・農村基本計画」に対応した農業対策への取り組みや新たな農産物貿易ルール、農業の多面的機能を発揮する政策の確立など農業の持続的発展に向けた政策の実現に向けて取り組みます。

▼農業生産額と農業所得の増大へ向けた政策支援の確立

▼国際化に対応した農業政策の実現

▼農政活動の充実強化及び体制の整備

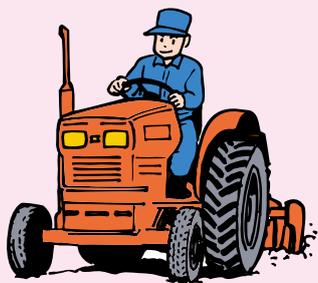
6. 食料・農業・JAへの理解促進を図る広報活動の展開

「やっぱり県産農畜産物推進運動〜みんなのよい食プロジェクト〜」をはじめ、県内農業や県内農畜産物の安全性等を広く国民にアピールしていきます。また、積極的な情報発信により、食料・農業・JAに関する理解促進とイメージアップを図る広報活動を展開します。

▼「みんなのよい食プロジェクト」による県民運動の展開

▼広報活動の強化及び広報体制の確立

▼協同組合間提携推進の取り組み



II JJAの総合性発揮による地域の再生

1. 組合員・地域住民の生活の総合的な支援

地域経済が縮小し、地域集落機能が低下していく中で、組合員・地域住民は、日々のくらしの中で、様々なニーズや思いを抱えています。JJAはこのニーズや思いの課題解決を支援し、心豊かな生活を実現するための活動を「JJAくらしの活動」として位置づけ積極的な取り組みを行います。

また、様々なくらしの相談に対応できるように相談機能の強化を図ります。併せて、JJAの総合性を発揮して各種事業・活動を幅広く提供し、新たな協同の創造を通じて地域の再生に貢献します。

2. 「食・農・健康」を軸とした地域活性化

国民の食料・農業への関心が高まるなか、「JJA食農教育プラン」に基づき、食農教育活動に取り組むことで、「食と農」への理解促進と地域の活性化を目指します。

また、組合員・地域住民の健康を守るため健康活動に取り組みます。

- ▼地域が一体となった「JJA食農教育」の推進
- ▼生産者と消費者を結び「地産地消」運動の展開
- ▼市民農園等を通じた地域振興の展開
- ▼組合員・地域生活者の健康を守る健康管理活動の推進

3. 「助けあい」を軸としたセーフティネット機能の発揮

組合員や地域住民が、住み慣れた地域社会で生きがいを持ち、安心して生活できる環境をつくるため、「助けあい」を軸とした高齢者福祉事業・活動に取り組み、地域セーフティネット機能の高度化を図ります。

- ▼元気高齢者への取り組み
- ▼介護保険事業の積極的展開

- ▼認知症啓発活動等の展開
- ▼JJA高齢者福祉の体制強化

4. 地域コミュニティ活性化の「場」の設

多様化する組合員・地域住民のニーズに対して、様々な地域コミュニティの「場」を設定し、組合員意識・利用者の自主的・自発的活動を促し、やりたい活動を展開しJJAの仲間づくり・ファンづくりを行います。また、JJAくらしの活動を通じ雇用の「場」を提供し安定的な雇用確保に努めます。

- ▼地域の仲間づくりの「場」の提供
- ▼地域の次世代をサポートする子育て支援活動の展開
- ▼地域における環境問題への取り組み
- ▼心豊かな生活を支える「教育文化活動」の「場」の提供
- ▼活動拠点としての「場」の提供
- ▼地域における雇用機会の創設

5. 「JJAくらしの活動」の体制の構築

組合員が主体となり活動する協同活動（くらしの活動）を推進するにあたっては、組合員・地域住民のニーズや不安は地域によって異なるため、組合員・地域住民のニーズに応じて、JJAで自立的に推進します。

また、JJAは、行政との役割分担を明確にしながら、NPOや生協との連携を図るとともに、各種協議会を通じてネットワークを構築し、「JJAくらしの活動」を推進します。

- ▼組合員・役職員一体となった「JJAくらしの活動」への取り組み
- ▼推進支援体制の構築
- ▼地域におけるネットワーク構築による促進
- ▼「JJAくらしの活動」の評価

III 協同を支えるJJA経営の確立

1. 総合事業性を発揮するためのJJAらしい経営スタイルの確立

支所・支店等の組合員等との対面機能を充実させ、総合事業体としての十全な機能発揮と組合員の協同組合の支援等を展開することで、組合員・利用者満足度の向上を図ります。

そのためにも、総合力の発揮を可能とする経営を確立するとともに、JJAの置かれた環境や地域特性を踏まえた経営戦略・中期計画を策定し、着実に実践します。

- ▼総合事業体としての事業・活動の展開
- ▼総合事業性を発揮するための健全経営の確立
- ▼地域特性を踏まえたJJAの戦略の策定と実践
- ▼JJA中期計画の策定・実践とPDCA（プラン、実行、チェック、行動）の徹底

2. JJAグループの事業伸長と効率経営に向けた対応

JJAの経営を取り巻く環境が極めて厳しくなることが予想されることから、個々のJJAの事業・活動の強化と経営の高度化をはかりつつ、効率化可能な部分については、各JJAの枠を超えた効率的な業務運営の仕組みを確立することで、JJAと中央会・連合会トータルでの効率化・合理化を徹底します。

また、JJAへの補完機能を十分に発揮するため、中央会・連合会等は、JJAの現状と課題に関する情報を共有し、総合力による指導・支援を行います。

- ▼県域戦略への取り組み
- ▼事業別戦略

- ▼中央会・連合会の指導機能の一体化と新たな改革

3. 組織基盤の拡充と事業基盤の強化、組合員との関係強化

農業構造の変化に対応した取り組みを展開することで正組合員基盤の維持・拡大を図るとともに、総合経営としての事業・活動を面的に拡大し、新たな組合員の加入促進と今後の関係強化をはかることで、中長期的にJJAグループの組織基盤と事業基盤を強化・拡充します。

- ▼農業構造の変化に対応した正組合員基盤の維持・拡大
- ▼「農」を起点とした新たな組合員の加入促進
- ▼協同組合への理解促進と組合員組織の活性化
- ▼組織基盤拡充・次世代対策専任部署の設置

4. 協同活動を促進する学習活動の強化と活力ある職場づくり

JJAの事業・活動の展開やJJA経営の変革を着実に実践していくために、協同活動を促進する学習活動の強化を図るとともに、トータル人事制度の確立・運用により必要な人材を確保・育成します。

さらに、職場のチーム力の組成とやる気を醸成し、部門横断的な全員参加型の活力ある職場づくりに取り組みます。

- ▼協同活動を促進する学習活動の強化
- ▼本県JJAグループの戦略的・人的活用
- ▼複線型人事管理制度の導入
- ▼活力ある職場づくり

女性部活動報告

■ J A熊本うき女性部活動報告 ■

●女性正組合員大会

女性正組合員加入の具体的なメリットの1つとして、第1回女性正組合員大会をウイング松橋にて開催しました。女性正組合員約600名が参加。当JAでは、JA運営について女性参画を図ろうと平成19年8月に、県内初の「女性正組合員加入促進対策本部」を設置し、女性部を中心に正組合員の加入促進運動を展開しています。

大会では、北京五輪でシンクロナイズドスイミング中国代表のヘッドコーチだった井村雅代さんが、「愛があるなら叱りなさい！〜これが私の育て方〜」を講演。併せて、福徳長酒（株）の野口康平マネージャーの「新調味みりん風」の商品研修を受けました。

●うきうき女子大学

女性の知識と教養を高め、地区を越えた交流を図ることを目的に、「第3期うきうき女子大学」を開講しました。3期生は73名で、税理士による家計教室や割烹料理長の料理教室や花の寄せ植え、田崎真珠への卒業旅行など1年に全6回を受講します。

当日は開講式後、JA熊本厚生連の健康運動実践指導士の佐々木誠市

さんより、健康教室と題し講義と実技を指導していただき、参加者らは汗をかきながらも笑顔で楽しく体を動かしていました。

●ふれあいの旅

女性部では部員同士の交流を図るため毎年ふれあいの旅を実施しています。

第11回目は広島・山口を訪れました。部員やJA役職員ら60名が参加。岩国錦常橋や大和ミュージアムを見学し、夜は楽しい親睦会で賑わったようです。

●女性部大会・家の光大会

女性部員約650名が参加し、平成21年度女性部大会・家の光大会を開きました。

活動発表や体験発表、学習会などが行われ、部員同士の交流を深めました。

また、現在3期目の活動をしている84の目的別グループ「うきうきサークル」を代表して12のサークルが活動を発表しました。また会場内にはサークル活動の作品展もあり、楽しい活動の様子や、みごとな作品が展示されていました。



▲第3期うきうき女子大学開講式



▲女性正組合員大会での講演



▲うきうきサークルの発表風景



▲ふれあいの旅（広島・山口）



米村 秋夫さん
JA菊池

JA菊池の米村さんのお宅を訪問しました。

米村さんは、昭和25年8月生まれ。大津農業高校（現：翔陽高校）を卒業、家業の農業を始めて42年が過ぎました。地元の世話役を長年して来られ、現在は、集落営農組合長として多忙な毎日です。現在、水稲80a、大豆2.5ha、麦3ha、ネギ20aを栽培されています。

■多忙な集落営農組合長

稲作を中心とした農業が盛んな地域です。近年農村地域の高齢化、兼業化が進むなか、農作業受託農家の減少や遊休地の増加を解消し、「室地区」の農地を守っていくために集落営農に取り組んでいます。

集落営農組合を作ることで、大型機械の導入、効率的な機械の利用など、大幅な省力化、低コスト化を実現し、収益の向上に努めています。現在、生産組合の作付面積は20ヘクタールです。

「集落営農の組合長として3年目になります。米の収穫後、麦、大豆を作付けしているが高収益は期待できない。これから生産組合の法人化を進めたいので、付加価値の高い高収益が期待できる野菜を栽培したい」と、現在思案中。魅力のある作物の導入で若い世代にパトナタッチしていきたい」と語り、組織の将来を見つめる組合長の目は輝いています。

■産地のブランド化

ネギの栽培は、軽量作物で労働の負担がからず、家族で元気に農業ができます。

ネギの出荷は、正月前後が最盛期であり、3月頃まで出荷作業に追われます。今朝、JAの東部出荷場に出してきたといわれる米村さんは、「この地で採れたネギは、広島、岡山が主であり、残りは地元で消費される。今年は、ネギの出荷量が少なく品質も良好で、昨年に比べると200円ほど高い。現在、約30軒でネギ栽培に取り組んでいます。今後は、高品質ネギを生産するための栽培技術の向上や、機械の共同利用による低コスト化を図ることで、生産者数や作付面積を増やしていきたい。また、消費者の求める安全・安心な農産物（ネギ）を提供することで、ブランド化が進めばいい」と抱負を語られました。

■好きな言葉

誠実 「常に人に対して、また自分自身や物事に対しても私利私欲を交えず、正直で真心のこもった行動をしていきたい」と話されました。



部長 吉岡 多恵さん
JA熊本うき小川町フレッシュミズ

■天草から小川町へ

吉岡さんは天草の出身。十一年前に現在のご主人と出会い、一年後に結婚しました。現在は四人の子供のお母さんとして頑張っています。

■生姜作っています

吉岡さん宅では、両親、祖父と共に、米1.5ha、生姜1haを作付けしています。生姜の農繁期は植え付けの四、五月、収穫の十一月です。「決まった休みがないことに最初は戸惑いました。雨の日には休みになり、何時休みになるか分からないので、全く計画が立てられませんでした。主人達は「農業は自由でいいだろう」というのですが、私には不自由でしかありませんでした。」

今は出来る範囲で手伝いをしています。また吉岡さんは、「農業について少しずつ勉強していきたい」と話されました。

■四人兄弟のお母さん

吉岡さんはなんと長男、次男、双子のお母さん

んです。この十年間で四人の子供を出産し、子育てに忙しかったので、あまり仕事には出られませんでした。

「生姜の収穫時期には畑仕事を優先し、微力ながらも私なりに頑張っています。忙しいときには、小学生の長男も弟達の面倒を見たり、家事を手伝ったりと協力してくれます。」

■フレッシュミズの活動

JAつき小川地区フレッシュミズは六年前に結成されました。吉岡さんは入会して四年目。近所の友人に誘われたのがきっかけです。現在十二名の部員で活動しています。主な活動として、ミニバレーボール交流会、テーブルマナー講習会、料理講習会を開催。取材当日は料理講習会が開かれており、県産の食材を使ったおかずと、米粉を使ったデザートを制作。皆さん忙しい中でも楽しそうでした。

吉岡さんが特に楽しみにしていることは、ミニバレー交流会です。体を動かすことが好きなので、大会までしっかり練習し、本番に臨みます。一番部員が集まる活動でもあります。

■今後の抱負

吉岡さんは今後の抱負として、「自分も忙しい時期に重なるので、参加できないことも多いんですが、たくさん部員が楽しみに参加できるように活動したいと思っています。そしてこの会が皆さんにとって、本当にフレッシュミズになれる場になれるようにしたいです」と話されました。

やっぱりごはん！

次世代リーダー研修会開く

JA全中・JA熊本中央会連合会(会営農生活センター)は2月2日、3日の両日、宇城市及び植木町で「やっぱりごはん！次世代リーダー研修会」を開きました。

同研修会は、生産者自らが米消費拡大の必要性を再認識し、また米の消費拡大を推進するために必要な最新知識を学ぶことが目的です。

県下から次世代を担うJA女性組織の20代から30代のフレッシュミズら約60名が参加し、米の消費拡大や生活における食事の役割など「実習編」と「理論編」を通して研修を行いました。

「実習編」では料理研究家の清水信子氏を講師に招き、トマトやナスなど県内農産物を使った家庭料理を学びました。「理論編」ではお米の健康性や優位性、現在の消費現状や食料自給率の問題などについて理解を深めました。

積極的に参加するフレッシュミズ



JAグループ熊本「地球温暖化防止対策への取り組み」決定！

〈農業への太陽光発電導入促進〉

JA熊本中央会は2月25日、理事会で「JAグループ熊本「地球温暖化防止対策」に対する基本的な考え方」を策定し、太陽光発電やバイオマス活用など、地球温暖化防止対策等への取り組みに関する基本方針を決定しました。

地球温暖化の進展が異常気象による災害をもたらす、農業経営に重要な影響を及ぼすことが懸念されることから、JAグループ熊本も、地球温暖化防止対策に積極的に取り組むこととしました。

具体的取り組みとしては、本県が全国一位の施設園芸面積を有し、化石燃料消費による加温栽培が中心です。このため、化石燃料の消費削減に向け、加温ハウスへのヒートポンプの導入・普及促進や営農用施設(畜舎、集荷出荷所、選果場等)への太陽光発電の導入促進など、生産活動面での排出削減対策。また個人住宅やJA施設等への太陽光発電の導入促進など、生活活動面での排出削減対策を策定しました。

さらに、植林や下草刈りなど森林保護・保全活動等を通じた二酸化炭素吸収源対策への取り組みを強化します。加えて、緑肥の作付面積の拡大、たい肥施用量の増大促進など森林・農地土壌における吸収減対策を定め、行政・関係諸団体と連携し積極的に取り組む予定です。

第51回熊本県野菜振興大会

熊本県やJAグループ熊本などで構成する、社団法人熊本県野菜振興協会(上村幸男会長)は23日、熊本市の熊本テルサで第51回熊本県野菜振興大会を開きました。県内の野菜関係者が一堂に集い、「安全・安心」を基本に、「食」の安定供給を図りながら、次世代につながる夢と希望にあふれる産地づくりを目指します。そして、産地関係者の総力を結集し、消費者から支持される「熊本野菜ブランドの構築」を進めていくことを確認しました。

県内の生産者やJA、行政関係者など約500人が出席。大会に先立ち行われた2009年度野菜経営コンクールの表彰が行われ、最優秀賞には八代市の池松洋一さん、清美さん夫妻が選ばれました。池松さん夫妻は、促成イチゴ約130kgを栽培しています。



▲最優秀賞の池松さんご夫妻

農林水産関係の受賞者は以下のとおり。受賞者は熊本県賞も合わせて受賞。

◇農林水産大臣賞Ⅱ池松洋一、清美(八代市)

◇農林水産省生産局長賞Ⅱ村上義博、節子(熊本市)

◇九州農政局長賞Ⅱ至治夫、浩美(阿蘇市)

熊本県茶振興大会

2009年度茶振興大会が3月3日、経済連7階ホールで開かれました。県やJA熊本経済連、熊本県茶商業協同組合などで構成するくまもと茶ブランド確立対策協議会および熊本県茶生産流通協議会の共催で、生産者やJA、茶商協、行政関係者ら約180人が出席。

大会では、09年度熊本県茶品評会の表彰式が行われ、優秀者を表彰しました。

また、熊本県経済連茶生産流通協議会が主催した茶共進会で、蒸製玉緑茶の部には福本勝さん(JA菊池)、普通煎茶の部には三年連続で川上誠一さん(JAくま)が特等に輝きました。共進会には蒸製玉緑茶35点、普通煎茶19点の合計54点が出品されました。

表彰式の後「県産茶の銘柄確立のため、地域の特徴を活かした高品質で安全安心な茶生産に努めよう」「県産茶の販路拡大のため、消費拡大活動を関係者一丸となって展開しよう」などのスローガンを採択しました。

茶品評会の上位入賞者は次の通り。なお上位入賞者については特別賞もあわせて受賞。

- ◆荒茶の部▼普通煎茶Ⅱ相良村銘茶研究会(有)サンティー 川上誠一(相良村)▼むし製玉緑茶Ⅱ相良村銘茶研究会 森山優一(相良村)▼かまじり製玉緑茶Ⅱ阿部主税(山都町)◆茶園の部▼斉藤敏春(菊池市)◆産地賞Ⅱ相良村

電話で気軽に、健康と介護のアドバイスを

「 J A 共済の健康・介護ほっとライン」

J A 共済では、健康や介護、育児についての悩みごと、気になることを看護師や介護支援専門員、医師などが直接電話でお答えする電話サービスを実施しています。

生活習慣予防や肥満などの生活全般の健康相談、医療機関の情報提供、介護リハビリなどのご相談を、経験豊かな専門スタッフがフリーダイヤルでお受けします。医師（精神科・診療内科を除く）による専門的な相談も利用時間内であればいつでもお受けします。（予約になる場合もあります）

また、お名前はお伺いしませんので安心してご相談いただけます。お気軽にご利用ください。

◆安心の4つのポイント◆

1. 相談料・通話料とも無料です。
2. お名前はつかがりませんので、プライバシーが守られます。
3. 経験豊かな看護師や介護専門員（ケアマネージャー）がお答えします。
4. 医師（精神科・診療内科を除く）による専門的な相談も利用時間内であればいつでもお受けします。

※お名前は伺いませんので安心してご利用いただけます。



ほっとちゃん

電話相談サービス

フリーダイヤル シアワセイチバン コンサルタント

0120-481-536

利用時間 月～金曜日（祝日を除く）午前9時～午後8時

料金	相談料、通話料ともに無料
健康・介護相談員	看護師、介護支援専門員（ケアマネージャー）
専門相談員	医師（精神科・診療内科を除く）

※携帯電話やPHSからもご利用になれます。
※お名前は伺いませんので安心してご利用いただけます。

◆こんな相談が寄せられています◆

- ・血圧のことが気になる。
- ・子どものアトピーを何とか和らげたい。
- ・いま飲んでる薬について教えてほしい。病院では聞きにくい。
- ・介護をしていて不安なことが色々ある。どうしたらいいのか…話を聞いてほしい。



「介助犬」の正式認定犬は全国で、わずか41頭。

第25回 J A 全国大会（10月7日）の展示・イベントで行われた J A 共済の社会貢献活動「ガンバレ！介助犬！ J A 共済はたらくワンワンランド！」をご覧になられた方も多いのではないのでしょうか。今回の大会では介助犬が実際にどのような仕事をしているのかデモンストレーションを行い、多くの大会参加者に介助犬についての理解を求めました。

このように J A 共済では、地域の人々が健康で安心して暮らせる豊かな環境づくりの一環として「介助犬」の育成と普及支援への取り組みを行っています。

「介助犬」とは交通事故などにより手足に障がいのある方の日常生活の補佐をするために、特別なトレーニングを積んだ犬のことをいいます。しかし、その「介助犬」

の正式認定犬は全国でわずか41頭。頭数が不足しているのが現状です。

J A 共済では、こうした「介助犬」の育成・普及支援に取り組み、介助犬の受け入れに対する理解を促進するため、介助犬によるデモンストレーションや介助犬の絵本の読み聞かせなどを行い、障がいのある方の自立と社会参加への支援に力を入れています。そして、こうした社会貢献活動を通じ、地域の方々が健康で安心して暮らすことができる地域社会づくりに努めています。

参考： J A 全中「 J A ファクトブック 2009」

J A 共済連ホームページ（社会貢献活動より）
社会福祉法人 日本介助犬協会
ホームページ

「よい食クイズ」

Q. 次のうち、白菜の名前で実際にあるものはどれでしょう？

- ① 舞の海
- ② 日馬富士（はるまふじ）
- ③ 白鳳（はくほう）

←正解は裏面へ

お酒と健康

健康診断などで「お酒はほとんど」「と注意された経験のある方は多いのではないだろうか。お酒（アルコール）は適量を楽しむ程度ならよいのですが、適量を超えたり毎日飲んでいると次のように身体のほとんどの影響を与えます。

- ・不眠、不安
- ・高血圧症、動脈硬化症
- ・がん
- ・糖尿病
- ・肝炎・肝硬変
- ・慢性胃炎、胃潰瘍、大腸障害など

アルコールは、エネルギー源となる嗜好食品であると同時に薬理作用を持っています。一歩間違えば病気の元となる「薬物」であることを知っておってください。

それでは、アルコールの適量（ほど）とはどの程度なのでしょう。適量とは、純アルコールで1日20グラムまでです。これは、ビール中瓶1本、ウィスキーダブル1杯、ワインでグラス2杯、日本酒1合、焼酎（25度）2/3合といわれます。

また、アルコールの飲み方も大切です。楽しく、ゆっくり飲みましょう。やけ酒や一気のみは肝臓の負担も大きくなります。不眠や不安解消のために飲まないでください。つまみは、良質

なたんぱく質やビタミン類の豊富な物を選ぶと肝臓の代謝機能が高まります。そして、週1〜2日は飲まずに肝臓を休ませてあげましょう。

「酒は百薬の長」という中国古代のことわざがあります。このことわざ通り、大昔は酒を薬として使用していたそうです。しかし、それは、「健康」であってこそ受けられる恩恵なのです。

年に1回は定期健康診断を受け、健康管理をしながら、美味しいお酒を飲んでください。



あとがき

● 緑の葉が出る前に、ハスに似た大きな花が幹一杯に咲き乱れ、まさに花木の王者と言える。



三月に咲く花【木蓮】

花がランに似ていることから由来、昔は「木蘭もくらん」と呼ばれていたが、ランよりハスの花に似ているとして「木蓮（もくれん）」と呼ばれる。

地球上で原始の時代から、今のような形で延々と、時代を超えて咲き続けているそのたくましさに、畏敬の念を覚える。

（花ごぼし） 自然への愛
モクレン科 落葉低木 中国

● 盟友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真等、各地区の総支部・支部（JA本・支所）へお寄せいただければ幸いです。

連絡先 熊本県農政連

電話 096-3280-112884
FAX 096-3266-58007

お詫びと訂正

1月号JA阿蘇女性部活動報告の家庭菜園コンクールの文書を「最優秀賞に久木野支部の河内スミ子さん」と訂正します。

【よい食クイズ】

答え：舞の海

ミニ白菜の名前です。

参考 「中央農業研究センタークイズ」



JA共済

あらゆる「がん」への備えとして。

一生涯のがん保障
がん共済

ずっとサンキューキャンペーン実施中！
<http://www.3qja.jp>

●ご加入にあたりましては、お近くのJA（農協）へお問い合わせください。
■ホームページアドレス
<http://www.ja-kyosai.or.jp>

09481050191